夕刊
磐城新聞
八月十二日發行
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）

擔がれた話
平＝大津間道中コント

酒井孤村

十五

『まああきれた人ね、其んなにじらす物ではないわ』女は僕の袖をぎつしり掴んで離しません『放せ放さんか』『斯うなつたら死んでも放しません』『馬鹿』力の限り腕を振つたが、女は死物狂で離れません……噫絶體絶命です、腕力で抑え付けるには深夜の宿の迷惑を考へると躊躇せられるのです。然し今は其れを考へてゐる場合ではありません學生を棒に振るか振ぬかの境目です、どの手で毆き付けてやらうかと思案してゐると妙な音がするのです。館の門內に何者か多數忍び寄つて僕のゐる二階でも錯つてゐる……か、其れが植込のある方にも裏の泉水の方にも秘かに襲ふ物の怪の氣配がするのです、物音は一瞬ぴつたり靜まりましたが何んとなく殺氣が逼る氣がするのです、ガラッ玄關が開く戞々佩劍の響き間一髮を容れずどや〳〵と階段を上る音……襖障子蹴倒し七八名の警官が僕の寢室へなだれ込んだのです……萬事休矣……女は此の時一種名狀すべからざる凄艷な笑ひ方をしましたが、警官が座敷へ入る前に素早く僕から離れて座つて居たのです『此の女か』と言ふのは警部補らしい『違ひありません！』『こら女神妙にしろ』『覺悟して居ります』女は何んの抵抗もせず手錠を掛けられて引かれて往きました『君は誰れですか、どうしてあの女と同伴したか一應話して吳れ給へ』來たなと思つたが萬事後の祭りです、昨夜から〳〵經緯を簡單に答へました、いや飛んだ眼に合つたなあ、何れ又署へ來て貰はにやならんが』『はそうですか』どや〳〵歸つて往きました、僕は醉もすつかり醒めて淺墓な行動を如何に悔いた事でせう宿の主人、番頭、女中等までが此の不意の椿事に驚いて僕の話を怪訝さうに聞くのです、何しろ炎難ましたと宿でも多少氣の毒になつたのでせう、お茶を煎れて呉れたり、酒を呑んでも食はぬのは毒ですと飯を出したりしました

寂しい心
草間桔梗

空虛な心の寂さを
私は公園へ捨てに來る
毎日──每夜──
けふはみづ色の夏の朝
ほのかな綠の香に
捨てゝしまつた寂しさを
そつと拾つてかへる私

盛夏斷片
金成磐洲子

豆の蔓夕燒の空を掴んで
家のまはりの唐黍から吹く風です
押せば胸の中でベルが鳴るようなお乳で
ぐん〳〵膨れる波浮袋の中の顏です
波が寄せて來るだけの夕暮

平吟抄（二）
島田忠夫

○青沼町長を見舞ふ
○あやふかりしみ命すこやかに保ち給ひ老町長は笑みて居たまふ
○この町に蘯し育てむ老町長のみ命長く神よ護らせ
○孫の君が描ける水繪を壁にかけて眺めゐ給ふ老先生は
○床に臥り話し給へるみ聲こそ力こもりて頼もしきかも
○義に强き青沼先生ふたたび强く起ち給ふ日を待たむかも

前後八日を親しんだ 海よさらば！
（5）―平第一臨海學校通信―

八月八日昨日の孟水泳のためか朝の起き方が元氣がない、六ノ二組の酒井君、小園井君などおしりを打たれたものもあつた、今日は最後の日だ、懷かしい平町家の人々の姿を思ひ浮べながら宿舍內外の片附をした中々はかどらなかつた、盛んに先生の掛聲がかゝる、床の整理、荷物の片附けなど終へてから朝の禮拜をすまして朝飯をとつた。まぐろのさしみ、今朝はとりわけたいしい

九時頃海岸に行く、築港內で黑鉢卷の人々の遠泳を行つた、見てゐても氣持よい、僕は黑鉢卷だ、來年こそはうんと練習して黑鉢卷にならふ

今日も隨分の人出だ、多くのお母さん達の顏が見られた。午後は宿舍の整理をしてゐるうちに空がくもつて來たので、水泳は中止して一心に宿舍の掃除をした。思へば八日間色々四倉の學校にはお世話樣になつた。おかげでたのしい臨海學校を終へることが出來た。僕等の土産は潮氣ある黑い肌と赤ふんのためにくつきりと殘された腰の白い線だ。先生と同じ蚊帳にねて、同じ場所で食事をとる、友達同志が親のもとをはなれて共同の生活をする。僕等男の生徒平第一校の生徒のもつ誇りだ

六時二十分四倉發の列車に乘り組んだ、流線型の機關車だ。夕日は西の山端に近い、空は眞赤だ、明日も天氣だ、列車の進むと共に色々のことが頭に浮ぶ、水をのんだ、波にもまれた、相撲をとつた、釜をはこんだ、一つ一つが思出の種である、これがどんなに今後僕等の力となるかしれない

何時の間にか平驛に下車した、驛頭にはお迎への人で一杯であつた。廣場に整列して校長先生のお話をうけて解散した。友達とかはす別れの言葉、先生さよなら、皆さんさよなら。夕暮町の家路をたどつた

梅天聞雲
珠雲 小野務平

連日陰森醉未開
長風搖蕩綠陰來
奔雷一過天初霽
人道明朝是斷梅

8月13日

△天草の亂（寬永四）△横井小楠生る（文化六）△城ヶ島燈台點燈（明治三）△獨の化學者テッタレ生る（一、八七二）△平町舊盆十五日の賑ひ（昭和一〇）

小說 高橋是清
（90）松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

夢魔（五）

『俺はな……』

と、言ひかけて、浪人は暫らく默つてゐたが、又言葉を次いで

『初めて會つた、あの出火の日から、貴樣に、そうだ高橋和喜次と言ふ英學生に俺の、俺の命とまでしてゐて、空しく死んだ誰一人の空しく死なれた誰一人の伜を見出したのだ。それ程、貴樣の總ては、死んだ伜にその儘の生寫しだつたのだ初め俺は、自分の兩眼を疑つた程だ。それ程似てゐた伜が生き替つて來た。さう思つて見た程だつた。然し他人である事は、どう否みやうもない。だが、笑ふなら笑へ。伜れに死なれて、病の身を、伜を一人の男にするまでは。殺されても生きてゐやうと思ひながら、とう〳〵死なれ、跡を追はふと考へてゐた俺が、貴樣を見てから、死ぬ氣をなくして了つたのだ。伜は高橋和喜次となつて、新らしく生きて來た俺はその親だと顏を見てゐる中に、自然とさう考へられて來たのだ。俺は死ねなくなつた。死ねなくなつた。俺は……』

言葉が、段々低い聲になり、呟くやくやうに、半ば自分自身に聞かせるやうに續いてゐた

『俺は、俺の心の中だけであの日から、貴樣の親になつてゐたのだ。貴樣が異國に暮す間、俺は一日として無事を祈らぬ日はなかつた さうする事が、俺には又樂しい日々の勤めだつた どうだ、判るか判るまいな こんな狂人じみた氣持ちはその後も、今日まで、俺は貴樣と一緒に、心の中で暮らして來てゐたのだ、一日も〳〵、立身した姿を見やう。見たい。これだけが望みだつた。それが、どうだ………』

初めの忿怒が、いつの間にか消えて、訴へるやうな言葉の調子になつて來てゐた

『迷惑がつて吳れまいぞ、厭な奴と思つて吳れるな。そして、もう一度、おい、今の暮らしと、今の氣持ちとを、捨てゝ、元の伜、いや、高橋和喜次に返つて吳れ。いゝか、いゝか、いゝか……』

和喜次は、白晝夢の中にあるやうな、不思議な氣持ちで、答へる言葉もなく、默つて頷いた

『いゝな。判つたな。今度こそ俺は、おそらく、又會ふ日はなからうと思ふ。もう悉く飽れて了つてゐるのだ。會ひたいが會へまい。顏を、見せて吳れ。見せて吳れ』

淚が光つてゐた

『賴んだぞ。いゝな。いゝ………』

遠くから、その時、提灯の灯が走つて來た。人聲が聞えた

『迎へが來たらしい。いゝな。では、別れやう』

和喜次が、無意識に、引留めやうとしたのを拂つて二三間走るやうに行つて、又振向いて

『別れる』

泣くやうな聲で言ふと激しい咳の音を殘して素早く街角を折れて了つた

茫然と和喜次は見送つてゐた

走つて來たのは桝吉と他の藝妓と半玉達だつた。和喜次の姿を見出する桝吉は眞先きに走り寄つて

『まあ、よかつた！』

息を彈ませて言つた

『本當によかつたこと』

『三人が追ひかけて行つた時は、あたしどうなる事かと思つて』

『亂暴な人ばかりだし……！』

『全くよかつたこと』

妓達が口々に言ふのへ何度も禮を言つて、桝吉が

『お前さん！』

小聲で呼びかけたが、それでもまだ和喜次は茫然と返事もせずに立つた儘だつた

株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
▲友部株式店
平町三丁目 電話一七七番

X光線科 整形外科
平町才槌小路四
大河内整形外科醫院
醫學士 大河内一郎
電話五八八

食事、喫茶、酒場を兼ねた
夏のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

耳鼻咽喉科
高柳醫院
（入院應需 自炊ノ便アリ）
醫學博士 高柳博明
平驛前（電三三六）

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
支店所在地
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
小名濱支店
海上給油所 大津、平潟
及油槽所 江名濱
營業種目
輕油、石油、揮發油、モビール油、重油、マシン油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

創業以來茲に二十年皆々樣の深甚なる御引立に相成り誠に有難く厚く御禮申上ます。私は創業前東京技藝校を卒へ造花の研究を致して居りますが未だ一人前の藝術家として立つ事が出來ず御滿足を與へる事が出來ません。此後皆樣の御指導の下に一層研究致し度御批判の上御引立御鞭撻下さいます樣切に御願ひ申上ます。
店主 山田信次
■祖先崇拜は家庭繁榮の礎■
祝弔 造花調製
山光堂
◎お盆の御用意は！
佛壇 塗位牌 金物佛具品
取揃へて有ります。
平四丁目通り 電話五五〇番

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万織田材木商店へ
福島縣平町 電話平四六〇番
營業種目
建築木材一式
銘木・ベニヤ板
秋田產・杉四分板
建具材・便利瓦
一總せる勉强振りを、ぜひ一度お試を乞ふ

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平町紺屋町 電話六八番

糸イラズ
此の間マネキンの實演を御覧になつて大体は皆樣糸イラズの便利經濟なる事がおわかりになりましたでせう、御用の御方は左記販賣店にありますから何卒御便宜の所で御求め下さい。
平町古鍛冶町縣社の下
糸イラズ代理店
藥の相談所 阿康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇〇五
平町田町 阿部藥舖
平町一丁目 水野藥局
平町鎌田町 武子商店
好間村稻荷下 阿康藥局支店
平町材木町 鈴木商店
平町新川町 清水藥舖
平町仲間町 佐藤商店
好間村元山 滿壽屋
（品切れの際は電話四四番へ）

弊院儀今般都合により元郵便局裏、三町目裏川岸通へ移轉仕り從前通り診療に從事仕り候間右謹告仕り候
平町田町五
明雲堂眼科醫院
新妻幸之助
電六六九

御進物には
鰹節に
鹽辛
魚問屋
平町四丁目 電二一三

新盆の戒名入提灯
例年の通り御安く御注文に應じます。
弊店の提灯が……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事ゝ場所が不便の爲で有ります。
平町才槌小路
金子提灯店

美味デ滋養分豊富ナ
にんべん／
新鰹魚節ガ
出來マシタ。
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
（委細面談）

全郡下四十七萬筆の土地賃貸價格更訂調査
平税務署直税課總動員で開始

平税務署管內に於ける全地目四十七萬筆の土地賃貸價格更訂調査は過般仙台に於て開かれた東北六縣署長會議に出席した高屋署長の歸廳と共に愈よ本格に入り、該調査事務の爲屬、雇各一人の定員を增加した直税課十二名を總動員して土地賣買及び小作料實例調査等一齊に外部的活動を開始する事となつたが、之より先之が遺憾無き調査終了を期する爲、各町村當局と完全なる脈絡を採る必要あるので近々中郡下各町村長並に財務主任の會同を求め之に關する諸般の協議打合せを行ふ筈であると、右に關し高屋署長は語る

東北人は極めて質實な一種の民族性と云つた關係から土地に對する愛着心が強く隨つて小作料が比較的高くなつて居る、即ち東北地方の小作爭議なるものは他に有り勝ちな小作料の輕減要求などゝ云ふ問題よりも寧ろ小作權の確立と云つた種類のものが多い位で、この見地から實際の賣買や小作料の實例などを基本として行ふ土地賃貸價格の查定上寛嚴宜しきを期する事は極めて至難の事業たるを失はない、公平適正の成果を得る爲最善を悉くす考へである、云々

因に該調査は明十二年中に完了し十三年分より之を課税の根基とする事になつてゐる

勿來＝九面＝鶴見 菊田の各濱賑ふ
鮑の卽賣と卽席料理好評

本年の勿來海岸九面浴場は町當局や關係營業者の熱心な宣傳と實際サービスに大馬力をかけた結果毎日曜日の人出約千五六百名を算し去る九日日曜の人出は二千名と云ふ本年の最高記錄を示した、當分賑ひが續くものと觀られてゐる、また泉村鶴見は日曜は五、六百名普通日は二、三百名內外で特に昨今は泉消防組主催よなり浴客に對し採鮑現場の案內及び獲もの〻卽賣、卽席料理等で大好評を博してゐる

星眼科院脇に 貫通道路開設
町役場促進に乘り出す

平町南町星眼科院脇の町道開設(延長二十間、幅員四間半)は地元負擔金の關係から遂に十一年度の豫算には計上を見なかつたが同所は驛前通りから本町を越へて大町通りと結ぶに重要な個所なので町では是非十二年度に施工すべく明後十四日午前九時から町會議事堂に大町 南町 三丁目 四丁目の關係四區長を招いて土木委員會を開き地元負擔金の捻出方法に關し協議する事となつた

○平町會。 來る十五日午前九時から開き左記諸件を附議する

寄附採納　追加更正豫算　退職敎員慰勞金給與　土地買收

警察官異動

農村警察の擴充に伴ふ縣下警察官の異動は昨十一日發命されたが、郡下の分左の如し

新 舊

部長
平 喜多方 本田泉
平 三春 矢內茂春
保安 平 木戶幸三郎
平 二本松 堀川延夫
巡查
福島 四倉 星勝之亟
同
四倉 福島 森喜七

一躍平均三十錢高
きのふの俵米共販値

石城販聯の俵米定期共販は昨十一日午後から行はれたが出荷五百四十六俵、相場は左の如く最高大野一號の十二圓八十八錢で前回に比し平均一圓三十錢高を示した

平一二、六八錢　高久一二、六七　大野一號一二、八八　二號一二、八五　三號一二、八一　平二號一二、七〇　三號一二、六八　四號一二、七〇

濱三郡の町村長會議
來廿五日第三校で

濱三郡町村長會議は來る二十五日午前九時半から平第三小學校に開き、縣から係員臨席過般の地方長官會議並に各部長會議の協議事項を傳達その他自治振興に就て協議する

更生盆踊り
磐崎靑年團で奬勵

既報—今年度經濟更生村に指定された磐崎村靑年團が經濟更生の趣旨を徹底せしめる目的から全村より募集した盆踊り歌詞は目下安藤、齋藤、黒木の三校長により審查中だが、右は來る舊盆十五日夜同校第二校庭に踊り場を設け櫓上より撰定歌詞の發表を行ひ『經濟更生盆踊り』と銘打ち全村老若男女をして唱和舞踊をせしむることになつたと

豐間村で更生座談會
助川代議士を招く

豐間村では今十二日午後四時から同村豐瀬館で避暑に來てゐる政友會代議士助川啓四郎氏を招き農山漁村更生に關する座談會を催した

救世軍海濱週間

救世軍平小隊では來る十七日から一週間日曜學校生徒四十五名を二班に分け新舞子海岸で宗敎的情操敎育と保健を目的とした海濱週間を實施する

優雅な代表的行事 今更廢すのは惜しい
危い轉機に在る鎌田の燈籠流しに 漸次存續論有力化す

平町初秋の景物——鎌田の燈籠流しは昨報の如くこれが所要財源難が惱みの種となつて存廢兩論に分れ一兩日中地元靑年分團の總會によつてその去就が決定される筈だが

何せ該催しは去んぬる大正十二年九月、震災犧牲者の慰靈を目的に創められてから地元靑年分團が主催し以來十有餘年鐵道橋死者の慰靈祭として行はれて來たもので、今では殆ど平町の代表的年中行事として遠近に著聞してゐるものであり、それに明年は遲くも八月頃新鎌田橋が完成される豫定なのでその竣功祝ひの一つとして今から相當な盛況を豫想されてもゐるので、地元民間には『このまゝ傳統を誇る催しも、失つてはならぬ』との存續論が一部廢止論を強く抑へつけてゐる模樣なので、之の分で輿論が展開すれば例年の如く行はれるものとも見られてゐる

新鎌田橋 明年八月迄完成
早くも敷地買收計劃 附近の繁榮を見越し

現鎌田橋を通る國道を廢して鎌田山を開鑿、平—神谷間を一直線に結ぶ『新鎌田橋』は目下竹田內務技手工事主任のもとに橋脚基礎工事を行つてゐる

延長百三十五米、幅員七米五〇のゲルバー式モダンコンクリート橋には四個の照明裝置を施し、別項の如く明年八月迄に仕上ぐべく鋭意作業を續けてゐる

一方鎌田山開鑿は延長七百三十米、兩側面は三段に傾斜がつき路面は側溝を除いて幅員七米五〇、新鎌田橋から二十五度の斜坂で上り更に開鑿した中央部から神谷村に下るものである

これらが完成の曉は現在田畑で占められてゐる新田橋から鎌田山麓に至る延長約二百米の間には人家も櫛比して面目を一新するであらうと早くも敷地買收を目論んでゐるものもあると云はれてゐる

迂回線の縣道編入陳情
地元で促進運動

橋梁の架換から當然衰運を免れない區內南部のため鎌田町では過般現鎌田橋の永久存續と直接國道の新設により廢道となる迂回線(現鎌田橋を通る國道)の縣道編入方を關係筋に陳情してあるが、現鎌田橋も最近腐朽甚しく前記燈籠流しが若し行はれるものとすれば見物人の雜沓で極めて危險なので勢ひ陳情運動が行はれる事であらう

捕獲廿五萬
蠅取り大會盛況

平町いはき新報社主催の蠅取大會は昨、今兩日に亘り行つたが今十二日の締切り迄捕獲數は二十五萬四千百三十四匹、參加人員二千三百三十名である

拂つた、拂はぬ
天理敎會改築にからみ 緊爭一年、代金請求訴訟

飯野村南白土字古宿江尻彥太郎氏が平町門傳辯護士を代理人として平町古鍛冶町天理敎山名敎會磐城平分敎會所中澤信通氏を相手取り昨年八月中平支部に申立てた木材代金請求事件は元熟烈な信者で材木商を營んでゐた彥太郎氏は信通氏の先代勇吉氏の依賴を受け大正十二年まで同敎會所改築用材時價二萬九千百四十八圓九十七錢を供給し昭和五年五月迄に代金二萬五千八百一圓七十八錢を受取り殘金三千三百四十七圓十九錢は敎祖殿新築で寄附金募集の上支拂ふべく約しながら其後言を左右に支拂に應せぬ處から右殘金の請求を申立てたもので、昨年九月以降七回の準備手續の末解決の曙光を見出し裁判所も宗敎關係の建築物なる處から極力和解を勸告したが敎會側も酒井辯護士を代理人として『二百三十二圓餘の支拂過剩がある』と反駁、又建築に對する專門家の鑑定も双方不滿で遂に和解不調に終り、緊爭一年の今日事件は再び續行され來月七日次回準備手續が開かれると云ふ

。。。。。紫雲英栽培指定 植田町

農會では本年度から三ヶ年繼續事業の紫雲英集團栽培地として佐糠及東田の二ヶ所を指導地と決定、一ヶ所に就き金壹百圓宛の助成金がある

誘拐團を組織し 闇の女を賣り飛ばす
共犯河野栃木に護送

既報、モグリ周旋の嫌疑で栃木署からの手配により平署に捕はれた小名濱町舟引場料理業菊屋主人河野光太郎(四三)の身柄は昨十一日栃木署から佐藤部長刑事が出張引取つて行つた

河野は元警視廳警部が首魁となつて組織した大がかりな誘拐團に加はり各地から約三十名の酌婦等を誘拐して滿洲の魔窟に賣り飛ばしてゐた事がバレて遂に檢擧の手が延びたものであると

子供の拾ひ取つた 大金を猫ババ
太い下駄屋の雇人捕る

豐間村沼の內字濱街魚商高橋由次郎さんは昨十一日朝八時頃平町新川町を通行中腹がけに大事にしまつてゐた現金二百圓と五十圓の爲替入り蟇口を遺してしまひ蒼くなつて平署に屆け出た處がその蟇口は間もなく附近の子供が拾ひ開けて見ると札束がゴソ〳〵入つてゐるのに吃驚して投げてしまつたのを折から通りかゝつた小僧風體の靑年が拾つて行つたと云ふ事實を聞込んだ同署では直に搜查の手を延ばしどうやら同町大工町一五下駄職渡邊四郎方雇人山川一吉(二〇)假名—の仕業らしい事を突きとめ行方搜查の結果、同日午後三時頃內郷村宮地內を徘徊中遂に捕はれて一切を自白、由次郎さんはそれをそつくり渡されて大喜びで引き下つた

。。。。。伊藤部長のご難
僞刑事騷ぎ一幕

前記—河野の身柄引取に遙々出張した伊藤部長刑事が僞刑事扱ひにされた飛んだナンセンス一題——きのふ正午頃平署に『いま警察官と云ふ貯金詐欺男らしいのがゐるから直ぐ來て下さい』と云ふ電話を平局から受けた同署ではソレ—とばかり熊田刑事が急行して窓口に頑張る男を調べて見た處、何と本物の警官と判り局員もダーア…。伊藤部長は同日十一時の汽車で平に降りたが旅費に不足したので直に平局に至り三十圓の即時拂ひを受けんとした處『身分證明するものを……』と云はれて『栃木縣警察署巡查部長伊藤濟信』の名刺を出し『これから平署に寄るんだ』と云つた處局員が『寄つて來た』と聞き違つて平署へ問ひ合せてからの騷ぎであつたと

たかり三人男

平町堤の內肉商深谷一郎(三三)同町大塚久次郎(三八)同町田町深谷榮吉(三六)の三名は最近南町邊の料理屋附近で狂言喧嘩をしてはたかり酒にありついてゐたが、昨夜も大町地內で一と芝居演じて附近民に迷惑をかけてゐた處を平署員が馳せつけたが榮吉は早くも逃走したので目下同署で搜查中

濱通荒し送檢

去る二日日曜の人出の新舞子で擧動不審から四倉署に擧げられた双葉郡龍田村下繁岡生れ鈴木德男(三〇)は一昨九年中內郷村宮で坑夫を稼いでゐる中窃盜を働き起訴猶豫の恩典に浴したが遊びを覺えた身の金に窮した處から去る四月中大村醬油醸造業鈴木傳方に忍入り現金五十八圓、十八金指輪一個を竊盜したのを手始めに四倉署管內四件、平署同上六件、富岡署管內で小學校荒し數件等、北は宮城縣南から、南は石城まで濱通りを股にかけて十九件二百五十餘圓の現金專門の盜みを働いた事自白今十二日身柄共平檢事局に送られた

。。。。。植田蒟蒻病豫防 植田町

農會では最近蒟蒻の腐敗病が續出、對策として石灰ボルドー液を撒布する樣各營業者に警告を發した

。。。。。いね子は居ぬか 須賀川

町料亭とら屋方抱藝妓いね子事荻原しま(一九)は馴染客の薄井三藏(二九)と牒し合せ九日夜家出、植田地方へでも來てゐるではないかと昨十一日植田署へ抱主から搜索方を願ひ出た

昔の所謂『地芝居』
平町に愉快な試み 十七日聚樂館で開催

在郷軍人の野戰砲兵が女裝の着つけもツンツルテンに、毛脛獰猛な『お輕』になつたりした所謂『地芝居』は、平町附近の在方でも何年か前迄見られた秋のユーモアであつた

伯林のオリンピックスタヂアムから國際競技の動悸が聞こえる今日、それに似通つた微笑ましい地芝居話。

平町には逐い先頃から『俳優が舞台の上で人間社會の生活の言動を再現し觀客に見せる藝術の一形式である—』演劇—芝居—劇に興味を有つ若い人達によつて『演劇研究會』なる集團が出來てゐた

○

何れも夫々商賣持ちの身、日中の仕事が了つて一と風呂浴びて晩餐が濟んで愈よ解放された時間が彼氏らの『劇の夕』ではあつた。蜻蛉の樣な頭を撫でつけ作ら口調いみじく脚本を讀み合つたりしては斯の道の者のみにゆるされた世にも羽化登仙の境地にワク〳〵嬉しがるのであつた

○

處がこの愉快な存在、そんな生ま優さしい事では肚の虫が納まらなくなつた、燃ゆるが如き藝術慾は覺に彼氏らを驅つて本式の舞台に脚光を浴びさせる處迄斷然水銀柱を奔躍させて了つたんである

○

そこで問題は來る十七日の午後六時から聚樂館でオペラコメデー『髮』時代劇『情炎』何れも同會の創作而して脚色に係る極めて清新な處を上演し銷夏的催しの豪華版として大平町紳士淑女諸君の爲萬斛の凉味を提供しやうと云ふ事になつたのである

○

收支決算の上餘れば來る防空演習の費用へ寄附するのであると云ふ、切に成功を祈つて已まない

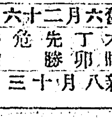
天氣豫報
小名濱測候所

今晩も明日も南西の風曇時々晴驟雨模樣

十三日 (小名濱測候所發表)

日出 四、五四　月出前 〇、四一
日沒 六、三〇　月沒後 三、三七
滿潮 後四、一五 後一一、四五　干潮 前七、一〇 後七、一五

舊六月廿三日 木曜 丁卯 先勝 危 井宿
新八月十三日



諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 大望な無理に通さんとして失敗を招く▲二黒 氣運佳良にして百事成る晋請造作名弘め吉▲三碧 周到の用意を以て事を擧ぐれば過ちなき日▲四綠 猜疑を脫して新方面の開たくに努むるも宜し▲五黃 一寸の隙なく方策を實施して好成績を得ん▲六白 諸事乘り氣を戒しめ定業に從ふを安全とす▲七赤 勇氣を逸りて却て波瀾を卷き起すが如き日▲八白 一步調正しく進めば疲れも無く通達亦吉し▲九紫 人先きに立ちて功名せんとせば却く失敗

三井タクシ
電話六八五番

利息割戾
特典付不動産擔保貸付
開始

今回低利斬新ナ不動産擔保貸付ヲ創始シマシタ
詳細ハ最寄支店デ御尋ネ上サイ
當行ハ至ル處樞要地ニ營業店ガアリマスカラ手數ト費用ガ少ク且ツ敏速ニ御利用ガ出來マス

株式會社 常陽銀行

右ノ外
一、有價證券擔保貸付
一、商品擔保貸付
一、同 倉庫證券擔保貸付
一、町村ヘノ貸付
一、養蠶組合ヘノ貸付
一、肥料購入組合ヘノ貸付
一、納税組合ヘノ貸付
一、貯金組合ヘノ貸付
一、其他各種産業組合公共團体ヘノ貸付
一、荷付爲替手形及商業手形ノ割引
以上簡便低利ニ御取扱致シマス

石城郡內營業店 平支店、湯本支店 植田支店、勿來支店